

報 告 書

2021年 2月 27日

活動実施団体名 NPO法人行徳野鳥観察舎友の会

責任者名：野長瀬雅樹

報告書作成者名：野長瀬雅樹

1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

江戸前干潟研究学校

2. 実施日

2020年7月25日

3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時20分～ 保護区内の海岸・池に前日設置した定置網を回収しながら、その都度採集された生物を観察・記録。

12時30分 降雨のため一般参加者は途中解散

14時 調査終了

5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加10名(3家族と1名)

スタッフ4名

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

行徳鳥獣保護区は東京湾奥部、宮内庁新浜鴨場に面する海面を埋め立てて造成された人工の自然保護区です。東京湾とは水門と水路で繋がり、干潮時には狭いながらも泥質の干潟が現れます。本土部には地域の生活排水を水源とする池や棚田があり、自然の力で浄化を図りつつ流下し、海へ注いでいます。淡水・汽水・海水と連続的に繋がるヨシ原(=かつての東京湾の風景)が復元された保護区の水生生物相に親しみ、保護区の環境や東京湾について知ってもらおうというのが江戸前干潟研究学校です。2015年から毎月1回の調査観察会を実施しています。

今回は2020年度初の公開実施。新型コロナの状況を鑑み一般の定員を10名に制限しての開催となりました。管理事務所前に集合し挨拶の後は保護区に入り前日に設置しておいた小型の定置網を回収していきます。1番目の汽水水路(トビハゼルート)では大量のシラタエビが採れており、参加者は「こんなにいるなんて」と驚いていました。淡水の池ではウシガエルのオタマジャクシやアメリカザリガニ、カダヤシなど外来種が目立ちましたが、大きなモクズガニやテナガエビも見られました。東日本大震災で沈下した百合ヶ浜沖の大網には、この時期としては少なかったものの大きなスズキやシログチ、クサフグ、小さいシャコなどが入っていました。研究学校初記録のクルマエビも1匹確認。プウッと膨らんだクサフグを手にした子供は満面の笑み。この辺りで雨が降ってきたため、一般参加の方は繰り上げ終了ということで保護区の外に戻り解散。残りの網は関係者で回収して調査を終えました。

雨天で途中終了となったのは残念でしたが、普段見ることの無い魚やカニ・エビの姿を大量に見て、触ることができ子供達は楽しそうに過ごしていました。後日参加者から「長男が数日間興奮したままでした。次も楽しみにしている」との感想を頂きました。

7. 写真



トビハゼルート 午前中は満潮だった



長靴池(淡水) 別皿にモクズガニとテナガエビ



百合ヶ浜沖の採集物



クサフグをつかんだよ